

活動推進のモットー：『市民と共にチームで介護予防に取り組む』『チームのベクトルを合わせる！介護予防（健康づくり）活動のベクトルは、自助→互助→共助→公助』『地域包括ケアシステム推進は、自助-互助-共助-公助のコラボレーション』

取組み・課題	関係する事業	令和5年度					令和6年度					令和7年度					令和8年度					目標値 中間アウトカム						
		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		7月	8月	9月	10月	11月	12月
窓（入口）	介護保険事業計画期間	第8期計画期間 計画策定 地域ケア会議・連携 包括連携					第9期計画期間					ニーズ調査等準備					調査票配布・回収											
	入口の仕組みづくり フローチャート作成 把握事業の推進	自立支援に向けた相談受付シート・フローチャートの見直し→作成 □自立支援に資する窓口対応力向上研修参 □相談受付シート検討・作成 □適正なサービス導入に向けたフローチャート (セルフチェック・スクリーニング) リハ専門職の介入方法の検討 □C事業対象者の明確化					モデル的に使用・見直し □窓口研修企画・実施 ケアマネジメント研修会開催 □相談受付シート検討・作成 プレゼン力向上研修会 □リハビリ専門職による自宅訪問のみづくり □すこやか教室誘導動画作成→ホームページにもアップ					相談受付シート・フローチャート運用 ケアマネジメント研修会開催 □ケアマネジメント研修会開催 □スクリーニングシート TCTの活用検討 □フローチャート見直し					□フローチャート見直し					新規の要支援認定者が現行の30%以下						
	体制強化	□C事業対象者の明確化					□リハビリ専門職による自宅訪問のみづくり □すこやか教室誘導動画作成→ホームページにもアップ					□FHITシステム導入 □スクリーニングシート TCTの活用検討 □相談窓口スタッフ勉強会の開催					□相談窓口スタッフ勉強会の開催											
主な目標値	(R4年度実績) 新規の要支援認定率数 122人					受付相談シート、フローチャートの作成 フローチャート使い方研修会 1回/年開催 30名以上参加					窓口で自立支援に向けたフローチャート利用率80%以上 窓口からC事業へつながった利用者数の増加					自立支援に向けたアプローチを意識した担当者80%以上												
ケアマネジメント	ケアマネジメント強化	2Gでケアマネジメント勉強会開催 □帳票書類の整理・検討 □ケアマネジメントI、IIの活用方法検討					ケアマネジメント研修会開催 □ケアマネジメント見直し・改定 □ケアマネジメントマニュアル改定 □関係者へ活用周知 □事業所説明会など所説明会					帳票書類・マネジメント 変更様式運用 □研修会の開催 □ケアプラン点検強化					□研修会の開催					要支援認定率の低下						
	主な目標値	(R4年度実績) 要支援認定率 5.0% 新規要支援認定者数 122人					ケアマネジメント研修1回/年 30名参加 アセスメントに関する勉強会3回 10名/回参加					ケアプランに生活機能評価票を活用している支援者80%以上																
C事業	C事業強化 対象者の明確化	R4年度介護予防強化支援事業参加 すこやか教室 強化型プログラム2コース実 □教室評価(現状分析) □対象者の再検討 □利用見込み量の算出					すこやか教室実施方法・運営の検討 □中間カンファの導入(その後の見立て) □介護予防型地域ケア会議の実施方法・運営の検討																					
	教室運営方法見直し 随時型移行	C事業を軸とした事業間連携の検討					随時型移行検討 □事業者説明会 □委託先の決定 随時型運用(事業者+胎内市) □事業所・医療機関へC事業研修会の実施					随時型運用(事業者+胎内市)					随時型運用(事業所が主) □関係者向け研修 □事業者説明会					1年以内に転倒経験のある者の割合の低下						
	フレイル対象者 アプローチ	□SCの介入方法の検討 □保健事業との一体的実施の取組検討 □認知症予防・交流の場の検討					□フォローアップ教室運営方法の検討 □すこやか参加者の活躍の場支援 教室のビフォーアフター動画作成 □C事業成果発表会 □事業所向け体験会 出張体験会実施					介護予防講演会 □医療介護連携における介護予防の取組検討 □住民向け体験会 □医療機関説明会					介護予防講演会 □住民向け体験会					C事業参加者の社会参加を行っている人の割合90%以上						
主な目標値	(R4年度実績) 生活機能維持・改善率 % (精査中) 教室参加者が社会参加をしている割合 81.6% 要支援認定率 5.0% 1年以内転倒者の割合 33.5%					生活機能維持・改善率 % (検討中) 成果発表会2回/年延べ100人参加・C事業出張体験会各包括3回/年延べ240人 SCへの相談件数の増加・C事業卒業生が担い手として活躍している割合10%					新規すこやか教室利用者の割合 5割以上 随時型受託事業所 2か所 参加者実120人					随時型受託事業所4か所 参加者実300人 フォローアップ教室で卒業後のモニタリングを実施 新規利用者が75人/年以上 (新規要支援認定者の5割)												
周辺事業	うさぎの会の見直し 社会参加の促進 体制づくり セルフケア強化	うさぎの会 実施・運営の検討 □教室の期間、教室の方法の検討 □モニタリング強化 包括・SC・関係者研修会 すこやか教室卒業後の受け皿検討(活動の場・担い手づくり) □通いの場の立ち上げ(にこ楽・胎内) □通いの場立ち上げ・継続支援の継続 □すこやか教室卒業後の活躍の場づくり セルフケアの強化 □普及啓発と連動																				うさぎの会 発展的な解散						
	介護予防と認知症施策の コラボレーション	認知症になっても安心して暮らせる体制づくり推進 □認知症地域推進員配置済 □認知症初期集中支援チームを設置済 認知症予防の取組検討 □ 介護予防と認知症施策コラボ企画 虹色カフェ開催																										
	生活支援 コーディネーター (SC) 活動検討	生活支援コーディネーター活動の再検討 □SC会議 1回/2か月 □介護予防プロジェクト(協議体) 2回/年 □情報収集・社会資源マップ随時更新 □胎内支え合い手帳作成					プレゼン力向上研修会 □活躍の場 SC・関係者の関わり方検討 □SC活動周知 □社会資源の発掘・創出 □のれんす号体験企画 □通いの場体験企画																					
市内事業所 リハビリ専門職の介入	市内リハビリ専門職 情報交換会の開催・継続 年2回 □リハ専門職 勉強会					リハビリ専門職による地域派遣事業検討 □事業者説明会 □リハ専門職勉強会					リハビリ専門職による地域派遣事業					□リハ専門職勉強会												
保健事業との一体的実施 取組推進	保健事業との一体的実施の取組検討 □データ分析・地域課題の明確化					一体的実施取組開始 □医療介護連携における介護予防の取組検討					□医療機関説明会																	
主な目標値	(R4年度実績) 教室のリピーター率 66.7% 通いの場活動か所 32か所 教室参加者が社会参加している割合 81.6%					地域リハ委託事業所1か所・派遣事業受託3事業所 社会資源マップの更新 見える化し全世帯配布 通いの場活動か所 34か所					教室のリピーター率の減少 リハ職派遣 年間30回 教室卒業生の社会参加している人の割合の増加(90%) 通いの場活動か所35か所・月1回以上の通いの場参加率10%以上					通いの場の認知度・参加割合の増加 すこやか教室卒業生の生活機能悪化率20%以下 社会参加の状況 教室修了生の担い手率10%												
普及啓発	ハイリスク高齢者対策	普及啓発手法の検討・啓発資料準備 フレイル高齢者早期発見仕組みづくり □C事業の普及啓発・チラシ作成 □リハ専門職の介入方法検討					介護予防講演会 □ 包括・SC・関係者研修会 プレゼン力向上研修会 □ 医療関係者・事業者(福祉用具事業者) 向け研修随時実施															年齢調整後 要介護認定率 低下						
	元気高齢者対策 ・セルフケア ・担い手育成	セルフケア強化 □すこやか元気アップ体操リーフレット改訂版作成 □介護予防大作戦! webページ「基本チェックリスト自己診断ページ」追加 担い手育成 □介護予防リーダー養成講座、生活支援サポーター育成の継続					□胎内市介護予防手帳 作成検討 □介護予防大作戦! webページの更新・内容拡充					□介護予防手帳作成 □介護予防大作戦! webページの更新・内容拡充					□介護予防手帳見直し											
	主な目標値	(R4年度実績) webページ閲覧数 _____件/年 (R5年度) (確認中) 運動機能低下者の割合(ニーズ調査) 21.4% フレイルの認知度 17.4% 認知症の相談窓口認知度 30.7%					フレイル対策プログラムを支援に取り入れている専門職の割合50%以上 介護予防大作戦! Webページ閲覧数の増加					介護予防手帳を活用し、自己管理している教室参加者の割合80%以上					すこやか教室新規参加者が50%以上 市民のフレイル認知度の増加(ニーズ調査) 認知症相談窓口認知度の増加											
事業	多職種連携の場創出	定期的な情報交換会開催(包括職員、リハビリ専門職員、医療機関専門職、事業者等)																				幸福度						
	事業者との連携強化	R5地域マネジメント強化支援事業取組 □基本方針・目的の共有(規範的統合)					□懇親会付き事業実施報告会					□懇親会付き事業実施報告会・評価					□懇親会付き事業実施報告会・評価					主観的 健康感						
主な目標値	(R4年度実績) 年齢調整後の要介護認定率 % 主観的健康観(よい・まあよい)の割合74.4%幸福度(7~10点)割合57.8%										庁内外の関係機関の多職種連携で事業評価を実施している					多職種連携によりロジックモデルを活用した事業評価の実施												